

令和元年8月30日

美里町議会
議長 大橋 昭太郎 殿

議会運営委員会
委員長 前 原 吉 宏

議会運営委員会派遣報告書

本委員会は、所管事務調査を終了したので、美里町議会委員会規則第22条の規定により下記のとおり報告する。

記

1. 調査年月日 令和元年8月6日（火）から8月8日（木）
2. 調査視察地 北海道芽室町議会
3. 参加委員 前原吉宏、吉田眞悦、鈴木宏通、福田淑子
千葉一男、大橋昭太郎議長
4. 随員職員 佐藤俊幸、高橋秀彰
5. 調査事項 議会運営と議会活性化策について

所管事務調査報告

「目 的」

本町議会では議会活性化策として、中学生への出前授業等を行ってきた。昨年度は、生徒１０名に議員１名の班に分かれての質疑応答を行い、たくさんの意見等を聴くことができた。

さらなる議会改革・活性化のため、芽室町議会で行っている、①ＩＣＴの推進、②高校生との意見交換会、③大学、高校との包括連携協定、④議員研修計画等の実施内容の研修を行った。

「芽室町の概要」

○北海道十勝地方、帯広市の西隣に位置し、農業王国として全道トップクラスの作物が生産されており、商工業も盛んである。また、ゲートボール発祥の地としても有名である。

○人 口 １８,５３６人（令和元年４月３０日現在）

○世 帯 数 ７,９７２世帯（令和元年４月３０日現在）

○面 積 ５１３.７６ｋ㎡

○財 政 令和元年度一般会計予算 １１,８５３,０００千円

「町議会の構成等」

○議員定数 １６人（平成２３年５月から変更なし）

○任 期 令和元年５月１日～令和５年４月３０日

○委員会構成（平成２７年５月から２常任委員会、任期２年）

・常任委員会 総務経済常任委員会（８人）

厚生文教常任委員会（８人）

・議会運営委員会（７人、任期２年）

議会だよりについて、企画は当委員会、編集作業は事務局により実施し、年１２回発行している。

・予算決算特別委員会（１５人）

○議会事務局職員

・専任３人（事務局長、係長、書記）、臨時書記１人

「研修事項」

1. I C T の推進について

- 1)平成 25 年度からの計画策定にあたり「芽室町役場 I C T 計画」を上位計画とした個別計画の位置付けである。
- 2)議会の見える化、議会の効率化、議会及び議員の政策形成力向上を図るための有効手段として、積極的に活用することを目的としている。
- 3)本会議、特別委員会、常任委員会、全員協議会をインターネット中継・録画配信している。
- 4)議会関係データのクラウド化、タブレット端末による会議通知や各種式典等の案内通知などによる議員の情報活用能力及び活用環境の向上を図っている。
- 5)芽室町議会独自のホームページ並びに S N S (フェースブック、ライン、ツイッター)は、ほぼ毎日のように更新しており、ホームページのコンテンツ整備は非常に見やすく整理してある。

2. 高校生との意見交換会について

- 1)平成 28 年度から公立芽室高校新聞局・生徒会、私立白樺学園高校吹奏楽部・サッカー部等との意見交換会を実施している。
- 2)高校教員と芽室町議会議員とのつながりがあり、議会活性化策の一つとして、多様な世代の住民参加の促進を図るために開催している。
- 3)高校生からの政策提言はないが、考えつかない発想が、まちづくりを考える機会のきっかけづくりになっている。

3. 大学、高校との包括連携協定について

- 1)北海道大学公共政策大学院との包括連携協定は、町民を代表し町政の意思決定等を行う町議会と、知的資源が集積する大学院が相互協力することにより、多様な地域課題に適切に対応するとともに、魅力ある地域づくりの推進に資することを目的としている。
- 2)同大学院との連携協定については、議会改革・活性化としてホームページ上にコンテンツとして掲載されている。
- 3)学校法人白樺学園白樺学園高等学校との包括連携協定は、人的、知的資源の交流、活用を図ることで、双方の活動の充実・発展に資することを目的としている。

4. 議員研修計画について

- 1)芽室町議会基本条例、第 2 章議会及び議員の活動原則と政治倫理の第 6 条議員研修の充実強化が条例として構成されている。

2)芽室町議会議員研修方針は、①議員の資質向上を目指した研修、②議会基本条例に即し、議会改革及び議会活性化計画の実現にむけての研修としており、具体的な研修項目を整備している。

「まとめ」

芽室町議会では、「わかりやすい議会、開かれた議会、行動する議会」をキャッチフレーズに議会改革と活性化策をおこなっており、全国議会改革度ランキング5年連続1位である。今年度改選期で、議員定数16人中、新人4人、2期目7人という議員構成である。

I C T計画でのタブレット活用は、本町議会でも導入について検討が必要である。

高校生との意見交換会については、本町議会でも実現可能な活性化策であり南郷高校、小牛田農林高校、小牛田学園との連携も考えられる。

本町議会でも議員の政策形成能力の向上を図るため、さらなる議会改革・活性化策が必要であると考えられる。